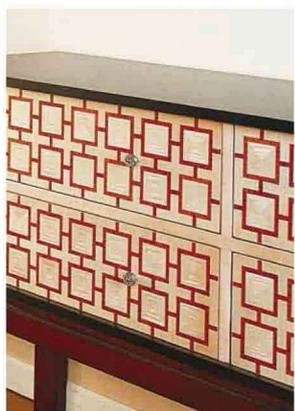


My Favorite Life Style



KENO ABROS™

## インテリアデザインに新潮流、トランジショナルという愉しみ。



引き出し部分は高級木材、シカモア、ローズウッドを使い幾何学模様を象嵌細工で装飾。この装飾は高級クラシック家具に用いられる技法で、模様は幾何学的なパターンで構成されているものを特にパークetry (Parquetry)と呼ぶ。持ち手の部分はステンレスを繊細に細工した特注品。

- ① ネットワークチェスト  
サイズ W153xD42xH81cm
- ② フロアーランプ  
サイズ W48xD43xH156cm
- ③ ドライブチェア  
サイズ W74xD74xH90cm

### ● ビズスタ注目

**キーノブラザーズコレクション日本デビュー記念企画**  
11月1日(土)～16日(日)の期間中に店頭でご購入の方にはご優待価格にて承ります。※月曜定休(11月3日、10日)  
※「ビズスタを見た」とお伝えください。



クラシックとモダンの二者択一から脱却  
室内風景を変えろ  
新テイストがトレンドに

大切な住まいを彩るインテリア。あれこれと思いを巡らせながら、好みのものを選んでいく。ずっと憧れだったクラシックな雰囲気仕上げるのもいい。新居に入居する際なら、新たな気分をよりモダンなインテリアで選ぶのもいいだろう。

ファッションと同様に、インテリアのカテゴリーも細分化されているが、大きく分けると「クラシック」と「モダン」が代表となるだろう。ところが、最近はその中間のテイストが注目を集め始めているという。だから、人の好みは面白い。

「トランジショナル」という言葉を聞いたことがあるだろうか。伝統と現代性をともに採り入れたテイストで、海外ではすでにトレンドになっているという。私たち日本人が好みやすいテイストでもあるので、ぜひチェックしておきたい。

このカテゴリーの代表的な製品が、米国の

セオドアアレキサンダー社から発表された「ニューコレクション」キーノブラザーズだ。もともとクラシック家具のブランドとして評価を固めていた同社の繊細なモノづくりと、新進デザイナーたちの家具に対する審美眼が相まって、これまでの様式美を超える新しいスタイルへと昇華。クラシック・オブ・トゥモロー、すなわち「未来への遺産」となるような瑞々しいデザイン性が特徴だ。

たとえば、左の写真の「ネットワークチェスト」。よく見ると、象嵌がそうが、細工の技法が使われているのが分かる。ディテールはクラシック家具の重厚感、仕上がりは現代のセンスでまとめた軽やかさ。まさに「中間」、これがトランジショナルだ。

家具づくりは、設計とデザインが決定してから素材を選ぶのが一般的なのだそう。しかしキーノブラザーズコレクションは、最初に素材ありき。同社がデザイナーに素材を提供し、そこから発想を広げるのだという。そのため、モダンファニチャーでは使用しないようなローズウッドやマホガニーなどの高価な素材に新しい魅力が生まれるわけだ。



これが色のトーンや木目などの特徴を活かしつつ、よりラグジュアリーを極めたコレクションを実現する秘密だ。

その他にも、セルフクロウリングの引き出しなど、伝統を重視するクラシック家具ではあまり見かけないような製品を多数発表するキーノブラザーズコレクション。東京都内では、欧米の名品を専門的に扱う西村貿易の自社ショールーム、「ギャラリーメートランドスミス白金台」で見ることが出来る。一度足を運んでみれば、「こんな家具を探していた」という出会いに恵まれることだろう。